令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【上落合小学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	(1)学んだことをまとめ、問題を自分で解決することができる資質・能力 (2)問題を正しく読み取り、根拠をもって考えを表すことができる資質・能力
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	(1)毎時間の授業において、学んだことを自分の言葉でまとめる活動を行うとともに、ICTやプリント等を活用して適用問題に繰り返し取り組む機会の設定。【通年】 (2)国語の物語や説明文では、要点を落とさず読み取って短い文章でまとめたり、社会や理科では事象やデータの結果をもとに、文章の大事なところを読み取って短くまとめたり、資料やデータをもとに考えたことを書いたりする活動の設定【単元ごとに1度以上】

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	全国学力・学習状況調査において、国語、算数ともに全国及び埼玉県の平均正答率を上回った。特に、「思考・判断・表現」の領域では、全国及び埼玉県の平均正答率より、高い正答率が見られた。しかし、国語の記述問題では、無回答率が昨年度よりも増加していた。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	児童は、学習した内容を活用して課題を解決したり、自分の考えを相手に分かりやすく伝えたりする力を身に付けていると考えられる。これは、日頃から取り組んでいる対話的な学習や、自分の考えを書く・説明する学習活動の積み重ねの成果であると考えられる。一方で、書くことについて苦手意識をもつ児童もいると考えられる。

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	(1)児童の言葉を引用しながら、まとめを行うことは、発達段階に応じて各学級、教科で積極的に取り組んでいる。 (2)短い文章でまとめたり、自分の考えを書いたりする活動についても発達段階に応じて各学級、教科で積極的に取り組んでいる。
	B	
⇓		
学力向上策の見直し	・自分が書いたものを必要に応じて「ルーブリック」などに照らし合わせて、評価する活動を取り入れることで、スキルアップにつなげていくことができると考える。 ・文章の書き出しや文末を支援したり、穴埋め形式の作文にするなど、必要に応じて個別支援を行うことで、書くことへの苦手意識を減らすことができると考える。	

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）